島田人 Story

Shimadajin File #125

子どもから大人まで、みんなが集える場所を守りたい――

竹下の駄菓子屋「わきっちゃん三代目」店主の山田さん。平日は小学生、休日は市内外からの客で賑(にぎ)わいます。祖母が、おでんと駄菓子屋を開店したのは約60年前。令和元年に、元の店舗をそのまま活用し、山田さんが復活させました。地元の人に見守られながら、人とのつながりを大切に、みんなの集いの場を守っています。

駄菓子屋「わきっちゃん三代目」店主
山田麻起子(やまだまきこ)さん(竹下)

【思い出の空間を守りたい】

以前は、介護職に就いていた山田さん。第2子の出産後、周りの勧めもあり、開業を決めたと振り返ります。

「当初は、パン屋を始めようと考えていました。開業に向けておびサポに相談し、具体的な手続きも進めていましたが、地元の人から『おばあちゃんのおでんを復活させてほしい』との声をたくさんもらったんです。そんな声を聞き、自分の中で『パン屋は何か違うな』と感じ、子どもから高齢者まで、みんなが集まれる店にしたいと思うようになり、おでんを置こうと決めました。その後は、子どもが好きなものや、土鍋で炊いたおにぎりなども追加。令和元年11月に駄菓子屋としてオープンしました。昔の店を知るお客さんからは、祖母との思い出話をよくお聞きします。懐かしむ姿を見て、思い出が詰まったこの空間を守っていかなきゃなと思っています」

【地域とのつながり】

山田さんは、店だけでなく地域活動でも、地元の人との交流を大切にしています。

「お店に来てくださる地域の人からは、たくさんのことを学ばせていただいています。また、地域で行われる活動が、お店の取り組みに関わってくることもあります。私もメンバーの一人として活動している『チームおもしろ五和(ごか)駅』では、合格駅(旧・五和駅)のお札を店に置くなどの取り組みをしていますよ。地域の皆さんと活動をする中で、人とのつながりを大事にする精神など、多くのことを教わっています」

【みんなの居場所に】

「これまで、何をやるかよりも、どういう場所を作るかを考えてきました。メニューは、お客さんの希望で増えたものばかり。平日の昼間は大人、夕方は小学生が多いですね。竹下商店街では、地域の人たちが来店する子どもたちを優しく見守ってくれています。そういった周りの支えがあって、お店が作られていったと思います。それに応えるためにも、みんなに喜んでもらえる取り組みを増やしていきたいですね。訪れた人に楽しんでもらえるように、自分も全力で楽しみたい。その姿を子どもたちに見せることで、同じように楽しんでもらえたらうれしいです」

ふるさとの思い出がいっぱいの憩いの場、わきっちゃん三代目。山田さんは商店街の一角で、今日もさまざまな人と交流しています。

駄菓子を買いに訪れた親子(店内)

発行／編集 島田市市長戦略部広報課
〒427-8501 静岡県島田市中央町1番の1
https://www.city.shimada.shizuoka.jp
0547-36-7118

FSC ミックス 紙 FSC C021550